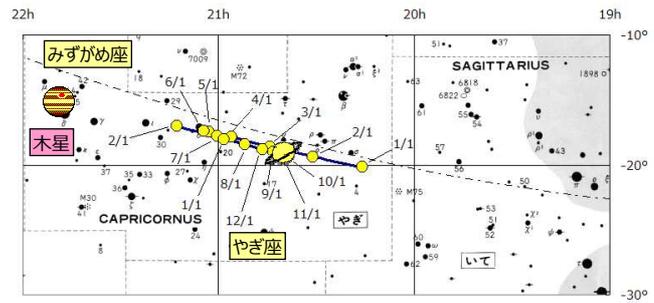


土星面近況 (2021年9月)

堀川 邦昭 (Kuniaki Horikawa)

2021-22シーズン (2021-22 Apparition)

やぎ座	合	2021年	1月24日
赤緯 -18°	西矩		5月8日
高度 37°	衝		8月2日
視直径(環) 42秒	東矩		11月4日
	合	2022年	2月5日

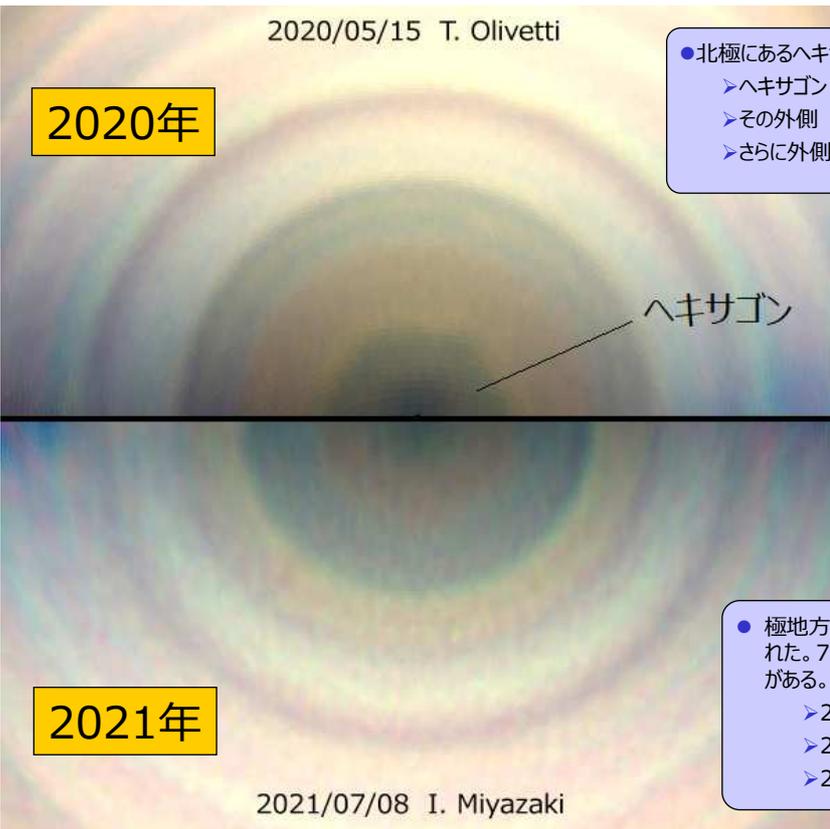


8/28の土星



2021/08/28 13:37UT I=291 III=29 T. Nishioka

土星の北極周辺の色調変化



2020年

2020/05/15 T. Olivetti

- 北極にあるヘキサゴンとその周辺の色調が変化。
 - ヘキサゴン (80°N~) : 濃緑 → 暗赤
 - その外側 (69~80°N) : オレンジ~赤 → 青緑
 - さらに外側 (61~69°N) : 暗緑系 → 黄色

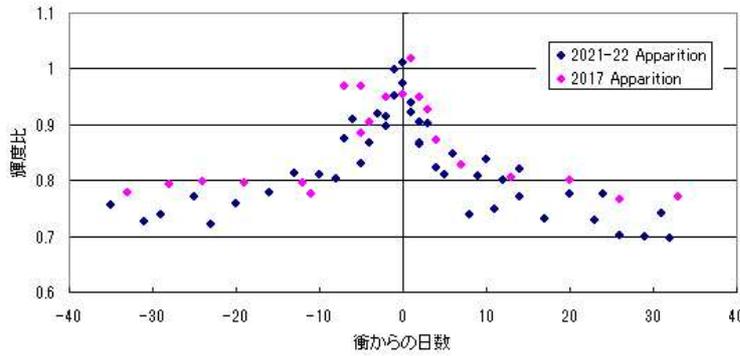
ヘキサゴン

2021年

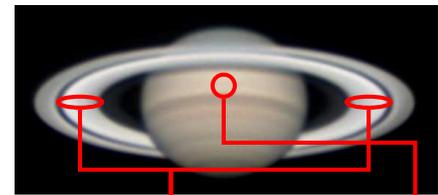
2021/07/08 I. Miyazaki

- 極地方の色調変化は2000年以降で3回観測された。7~8年に一回のペースで起きている可能性がある。
 - 2006~2007年 (南極地方)
 - 2014年 (北極地方)
 - 2021年 (北極地方)

今年の衝効果は小さかった！？



- 土星の衝の前後に環がひと際明るくなる現象を衝効果という。
- 昔から知られていた現象だが、撮像観測で客観的に明るさの比較ができるようになった近年は、毎シーズン恒例となっている。
- 今年も見られたが、例年に比べて期間が短かったように感じられた。環の傾きが減少したことによる錯覚か、実際に異なるかを検証した。
- 結果として、2017シーズンと比較で、大きな違いは認められなかった。ただし、平時の明るさは、環が開いている時の方がやや明るい傾向があるので、それが見た印象に影響しているのかも知れない。



$$\text{輝度比} = \text{B環の輝度 (左右の平均)} \div \text{EZの輝度}$$